



みんなで赤ちゃんを百日咳から守りましょう	1ページ
外来ホールでコンサートを行いました!!/三重病院通所(つうえん)でのクリスマス会/「やまぼとギャラリー」情報コーナー/5病棟の生活のひとこま⑨	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「糖尿病のくすり」/医療福祉相談室だより/糖尿病学習会のお知らせ	3ページ
アレルギー教室のクッキング/外来からのお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

みんなで赤ちゃんを百日咳から守りましょう



百日咳は、非常に感染力の高い呼吸器感染症の一つです。時に小さな赤ちゃんの命を奪うこともあります。ワクチンで予防可能な疾患の一つであり、日本では1948年に百日咳ワクチンが導入され、ワクチンの普及とともに患者数は激減しました。しかし、現行ワクチンによる免疫持続時間は短いため、日本を含めた多くの先進国で青年・成人患者の増加が認められています。それに伴い、青年・成人患者あるいは保菌者が乳幼児の感染源となることが問題となってきました。

日本では、感染症法に基づく感染症発生動向調査の定点把握疾患として、全国約3000の小児科定点から百日咳患者数が報告されています。しかしながら、乳幼児における百日咳重症例の実態を把握するためのサーベイランスシステムは構築されておらず、学会等での各施設からの症例報告レベルにとどまっているのが現状です。

私たちの研究グループでは、三重県を含む6県において、小児百日咳入院症例について後方視的調査を実施しました。その結果、全国では年間600人程度の入院例があると推測されました。報告例の56%がDPTワクチン接種開始年齢(生後3か月)未満であり、感染源対策が重要であることが示されました。推定される感染源として、母親、父親、同胞があげられ、35%の症例が同居家族からの感染でした。

百日咳ワクチンの最も重要な目標は、乳幼児の罹患、重症化を予防することです。ワクチン接種年齢以前の乳児に密接に接触する可能性のある成人に対してワクチン接種を行う、いわゆる「cocooning strategy」が今世紀になり提唱されてきました。「cocoon」とは、蚕が繭を作ることを意味しており、ワクチンにより免疫を獲得したおとなで赤ちゃんを包み込んで百日咳から守ろうという考えです。米国をはじめ、ドイツ、イタリア、フランスなどの国々でcocooning strategyが推奨されています。コンピューターによるシミュレーションでは、赤ちゃんの世話をする人の90%がワクチンを受け、獲得された免疫が5年継続すると仮定すると、このcocooning strategyにより、3か月未満の赤ちゃんの百日咳感染が70%以上予防できるとの報告もあります。最近では、アメリカで出生したお孫さんに会いに行くために、百日咳ワクチンの接種を希望されるおじいちゃん、おばあちゃんが、当院のワクチン外来で時に見受けられます。

分産後早期に父母にワクチン接種を行っただけでは、予防効果が不十分という報告もあります。赤ちゃんへの移行抗体レベルを上げるという意味を含めて、妊婦さんへのワクチン接種も有効な感染予防手段の一つと考えられます。また、成人百日咳は診断そのものが困難であることも問題です。咳が2週間以上続く場合は、年齢に関わらず百日咳を疑うことが重要です。こどもからおとなまで、みんなで力を合わせて、赤ちゃんを百日咳から守るようにしましょう。

(国立病院機構三重病院 菅 秀)